

「歯科口腔保健の推進に関する基本的事項」に関する目標等と福岡市の現状

資料 4

- 国の目標値に達しているが現状値に達していないもの
- 国の目標値に到達しているもの
- 国の現状値に到達しているが目標値には到達していないもの
- 国の現状値に達していないもの

項目	具体的指標 健康日本21(第二次)にも同様の指標があるもの	国		福岡市	
		目標値 (R4)	現状値 (H28)	現状値	センター設置時 (H26)
第一 歯科疾患の予防に関する目標					
(1)乳幼児期:健全な歯・口腔の育成	①3歳児でう蝕のないものの割合の増加	90%	88.1%(R1)	89.9%(R2)*1	84.1%
(2)学齢期:口腔状態の向上	②12歳児でう蝕のない者の増加	65%	70.6%(R2)	67.1%(R2)*2	55.7%
	③中学生・高校生における歯肉に炎症所見を有する者の割合の減少	20%	19.8%	-	-
(3)成人期(妊産婦である期間を含む)健全な口腔状態の維持	④20歳代における歯肉に炎症所見を有する者の割合の減少	25%	27.1%(H26)	33.3%(R2)*3	-
	⑤40歳代における進行した歯周炎を有する者の割合の減少	25%	44.7%	51.9%(R2)*4	32.0%
	⑥40歳の未処置歯を有する者の割合の減少	10%	35.1%	39.3%(R2)*4	49.4%
	⑦40歳で喪失歯のない者の割合の増加	75%	73.4%	90.5%(R2)*4	90.6%
(4)高齢期:歯の喪失の防止	⑧60歳の未処置歯を有する者の割合の減少	10%	34.4%	29.4%(R2)*4	29.1%
	⑨60歳代における進行した歯周炎を有する者の割合の減少	45%	62.0%	64.4%(R2)*4	38.5%
	⑩60歳で24歯以上の自分の歯を有する者の割合の増加	70%→80%	74.4%	90.0%(R2)*4	71.8%
	⑪80歳で20歯以上の自分の歯を有する者の割合の増加	50%→60%	51.2%	51.6%(R1)*5	40.6%(H25)
第二 生活の質の向上に向けた口腔機能の維持・向上における目標					
(1)乳幼児期及び学齢期:口腔機能の獲得	⑫3歳児での不正咬合等が認められるものの割合の減少	10%	16.0%(R1)	15.7%(R2)*1	11.0%
(2)成人期及び高齢期:口腔機能の維持・向上	⑬60歳代における咀嚼良好者の割合の増加	80%	71.5%(R1)	70.6%(R2)*3	-
第三 定期的に歯科検診または歯科医療を受けることが困難なものに対する歯科口腔保健における目標					
(1)障害者・障害児:定期的な歯科検診・歯科医療の推進	⑭障害者支援施設及び障害児入所施設での定期的な歯科検診実施率の増加	90%	62.9%	68.0%(H29)*6	-
(2)要介護高齢者:定期的な歯科検診・歯科医療の推進	⑮介護老人福祉施設及び介護老人保健施設での定期的な歯科検診実施率の増加	50%	19.0%	26.9%(R1)*7	-
第四 歯科口腔保健を推進するために必要な社会環境の整備における目標:歯科口腔保健の推進体制の整備					
	⑯過去一年間に歯科検診を受診した者の割合の増加	65%	52.9%	59.5%(R2)*3	41.9%(H25)
	⑰3歳児でう蝕がない者の割合が80%以上である都道府県の増加	23都道府県→47都道府県	26都道府県(H27)	89.9%(R2)*1 ※再掲	84.1%
	⑱12歳児の一人平均う歯数が1.0歯未満である都道府県の増加	28都道府県→47都道府県	27都道府県(H29)	0.84本(R2)*2	1.05本
	⑲歯科口腔保健の推進に関する条例を制定している都道府県の増加	36都道府県→47都道府県	43都道府県(H29.4月)		
出典・備考等	<p>【国の現状値出典】 地域保健・健康増進事業報告(H28年度), 学校保健統計調査(R1年度), 歯科疾患実態調査(H28年), 国民健康・栄養調査(H26, H27, H28年), 厚労科研「歯科口腔保健の推進に関する総合的な研究」(H28年度), 厚生労働省歯科保健課調べ(H29年度)</p> <p>【福岡市の現状値出典】 *1:3歳児歯科健康診査 *2:福岡市学校保健統計 *3:市民の健康づくりに関するアンケート調査 *4:歯科節目健診結果(平成31年度受診率:1.77%) *5:福岡市高齢者実態調査 *6:障がい者施設における歯科保健アンケート調査 ※入所, 短期入所, 共同生活援助施設に実施 *7:介護保険施設等における歯科口腔保健に関するアンケート調査</p>				